

々六ヶ敷問題ナリ何カ外ニ良キ考案無キヤト答ヘタルニ付本官ハ只今ノ話ハ自限リノ考ヲ立テテ率直ニ開陳シタル次第ナレハ其ノ積ニテ右ニ基キ更ニ御考慮ヲ請フト述ヘタル処交渉員モ之ヲ諒トシテ引取リタリ

惟フニ張作相及其ノ周圍ハ對奉天並對吉林省民ノ關係上出来得レハ彼等ニ都合良キ輕キ条件ニテ我方ノ諒解ヲ取付ケント極メテ虫ノ宜キ考ヲ抱キ居ルモノナルヘク奉天側ノ如ク惡擦シ居ラサル代リニ對外問題ニ付テハ極メテ消極的ニ臆病ナル吉林側ノ事ナレハ之レ以上話ヲ進メ来ル事ハ万之有ルマシト思考セラル本件ハ結局奉天ニ於テ滿鉄ノ手ニテ解決スヘキモノナルヘキカ滿鉄側ノ考ヘ居ル条件ハ

(一)長大線ノ即行

(二)開海借款權ノ復活又ハ現在ノ輕便線ヲ広軌ニ改ムル事

(三)吉海ノ「ルート」ヲ盤石ヨリ樺甸ニ變更スル事

等ニアルカ如シ只茲ニ注意ヲ要スルハ本件カ滿鉄ノ手ニテ奉天ニテ解決セラレントスル場合一ハ前記吉林官憲側ノ体面問題ノ為今一ハ吉林人ハ奉天側カ常ニ鐵道問題ニテ多額ノ賄賂ヲ取り居リ其ノ仲介者ヲ魏武英ト見做シ居ル模様ナレハ此ノ兩者相会シテ又例ノ省議會辺ヲ突キ排日騒ヲ起サ

シメ折角無事ニ進行シツツアル吉敦工事ノ妨害等始マラストモ限ラス此ノ点ハ余程警戒ヲ要スルモノ有リト思考セラ

ルルニ付予テ吉林人ト親交有ル峰畑ヲシテ出来得ル丈之カ

右要領吉原ヨリ滿鉄本社ニ報告済

在支公使、奉天、長春ヘ転電セリ

(付記)

十二月二十七日付吉原滿鉄吉林公所長ヨリ滿鉄本社庶務部長宛

吉海鐵道敷設中止ニ関シ張作相吉林督弁ヨリ吉林省長公署ニ達シタル電令ノ件

吉公報第一一七号

(外務省接受月日不明)

昭和元年十二月二十七日

吉林公所長

庶務部長殿

吉海鐵路敷設中止ニ関シ吉林督弁

ノ電令

吉海鐵路敷設ニ関シ吉林督弁張作相ヨリ省長公署ニ達シタル電令ニ拠レハ

第一四四号(極秘)

(四月二十四日接受)

現今戰端未タ息マス軍務緊迫シテ軍需尚整備セス此後ニ於ケル省庫ノ負担モ亦憂慮スヘキモノアリ斯ル時ニ際シ吉海鐵路ノ敷設資金ヲ省民ノ負担ニ属セシムルハ其苦痛輕カラサルニ拠リ同鐵路ノ籌備進行ヲ暫止シ時局平定ヲ俟チテ并理スヘキ様各官庁、諸機關団体等ニ飭令スヘシ

如上ノ電命ヲ接受シタル省長公署ハ吉海鐵路籌備処ニ転飭

スルト共ニ商、工、農各界ニモ此旨通達セリト云フ

写送付先 東京支社長、庶、調査課長

各公所長 哈爾濱事務所長

長、開、鉄、奉各地事務所長

吉林總領事 在吉特務機關

(7) 洮索鐵道關係

一一二二 四月二十三日 在奉天吉田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

張作霖ヨリ洮索鐵道敷設借款ニツキ我が国ノ

意向打診ニ関シ報告ノ件

付記

五月五日付外務省覽
索倫鐵道ニ關スル件

第二ヲ申出ル場合ニ合併論議スル考ニテ一応右ノ如ク最も好意的ノ答ヲ為シ置キタリ

編註 警告別紙第二見当ラズ

(付記)

索倫鐵道ニ関スル件

(大正十五年五月五日)

一、大正十五年四月二十二日張作霖ハ其秘書談国桓ヲシテ在奉天吉田總領事ニ對シ洮南索倫間鐵道布設ノ為日本側ヨリ内密ニ二千万円乃至四千万円ノ借款ヲ得度キ旨ヲ通セシメタルカ吉田總領事ハ談ニ對シ帝國政府ニ於テハ滿州開發ノ為鐵道布設ノ益々多カラシコトヲ希望スルモノナレハ条件次第ニテハ本件ハ無論充分好意の考慮ヲ加ヘラルヘシト思考セラルル旨ヲ述ヘ又四月二十九日張作霖吉田總領事會談ノ際張ヨリ本件ヲ申出テタルニ對シテモ吉田總領事ニ於テハ右談国桓ニ為セルト同様ノ趣旨ヲ答ヘ置キタル趣ナリ

二、洮南索倫間ノ鐵道ハ其位地ヨリ見ルモ結局之ヲ延長シテ興安嶺ヲ超ヘ海拉爾方面ニ到達スルニ非レハ其ノ效果ヲ發揮シ得サルモノト思考セラルル処何レニスルモ該鐵道ハ僻遠未開ノ土地ヲ通過スルモノナレハ本線開通ノ曉収支償フヘキヤ疑ハシク旁々東三省目下ノ財政經濟ノ狀態ニ鑑ミ斯カル大規模ニシテ且不生産的鐵道ヲ計画スルハ聊カ無謀ナリト云フヘキ処他方滿州ニ於テハ地方官民

ノ希望モアリ且經濟上モ有意義ナル長大線等未着手ノ線多數アリ然ルニ奉天当局ニ於テ之等ノ線ヲ顧ミシテ却ツテ洮南索倫間鐵道布設ノ如キ不急ノ事業ニ巨費ヲ費ヤサントスルカ如キハ其動機甚疑ハシク結局右ハ主トシテ軍事上又ハ政治上ノ目的ニ使用セラルルニ至ルモノニ非サヤト思考セラル

三、滿鉄ノ算定ニ依レハ洮南索倫間鐵道(延長一三六哩)ノ建設費(車輛費等ヲモ含ム)ハ一千七十万円ナル処曩ニ張ヨリ吉田總領事ニ申入レタル額ハ前記ノ如ク二千万円乃至四千万円ニシテ既ニ其予定額其モノニ大ナル開キアルノミナラス右滿鉄側算定トノ間ニモ甚シキ金額ノ相違アリ到底精確ナル數字トハ認メラレサル処或ハ張申出ノ該金額中ニハ東三省財政整理ニ要スル資金ヲモ含マシメタルモノニ非サヤトモ思考セラル

然ルニ我方ニ於テハ從來滿蒙諸鐵道ノ建設ニ関シテハ其建設費中ニハ純然タル實際必要額ノミヲ計上シ苟モ鐵道ニ關係ナキモノハ一切之ヲ含マシメサル立前ヲトリ來レルニ顧ミ今前述張申出ノ如キ過大ニシテ然モ用途疑ハシキ金額ヲ本件鐵道建設費ト認メ之カ借款ニ応スルカ如キハ從來我方ノ滿蒙鐵道建設ノ歴史ヲ汚シ將來ノ備ヲ作ルモノト云フヘシ

將又東三省ニ於テ真實財政整理等ニ付資金ヲ要スルモノトセハ此際其用途ヲ明ニシ且具體案ヲ作成シ我方ニ申出ツルコト可然スル場合ニハ我方ニ於テハ之ニ對シ好意的考慮ヲ加フルニ吝カナラサルヘキコト對張警告方針中ニモ之ヲ明ニシ居レル所ナルカ何レニスルモ鐵道建設ニ要スル資金ト其他ノ用途ニ用フル費用トハ之ヲ明確ニ區別スルコト大局上必要ナリ

四、如上ノ如ク此際我方ニ於テ張申出ノ本件鐵道計画ニ関与スルカ如キハ各方面ヨリ見テ甚面白カラサル結果ヲ生スヘキヲ以テ差當リ現在以上本問題ヲ進メサルコトスルト共ニ今後奉天側ヨリ本件ニ付何等提議シ來リタル場合ニハ之ヲ機會ニ從來我方ニ於テ予定セル線ノ實現ニ奉

天側ヲ導クコトニ努ムヘク右ト同時ニ先方ヨリ東三省財政整理問題ヲ提起シ來リタル場合ニハ對張警告別紙第二ノ方針ニ拠リ徐ロニ之ヲ処理スルコト可然

編註 別紙「對張警告」ハ同文書ニ添付サレテオラズ

一一三三 六月七日 在奉天吉田總領事ヨリ
木村亞細亞局長宛

洮索鐵道ノ建設ニ関シ町野顧問力大藏滿鉄理事ニ對シテナシタル談話要領送付ノ件

付屬書 五月二十五日付
滿鉄本社ニ於ケル町野顧問談話ノ要領

大正十五年六月七日

在奉天

吉田總領事

外務省

木村亞細亞局長殿

拝啓陳者索倫線ノ建設ニ関シ五月二十五日町野顧問力大藏理事ニ對シナシタル談話ノ要領別紙何等御含迄ニ供貴覽候
敬具

(付屬書)

大正十五年五月二十五日午後三時滿鉄本社ニ於ケル
奉天町野顧問談話ノ要領

町野「索倫線ノ建設ニ向ツテ目下奉天省ノ氣運動キツツアルカ滿鉄トシテ之ニ對スル御考如何」

大藏「此ノ問題ハ最初張作霖氏ヨリ鎌田公所長ニ秘書長ヲ遣ハシ話アリタルコトナルカ其ノ後其ノ交渉ハ數回張作霖氏ト吉田總領事トノ間ニ行ハレ居リ同總領事ヨリハ滿鉄ニ向ツテ索倫線ノ建設ニ付テハ自分モ種々考慮スル点アル故滿鉄トシテハ之ヲ取上ケサル様希望ストノ依頼アリタル次第ニテ從テ滿鉄トシテハ今直ニ貴下ニ向ヒ諾否ヲ申上難シ」

町野「自分ノ考トシテハ目下奉票暴落ノ折柄ニモアリ滿鉄カ索倫線建設ニ約參千万円ヲ承諾セハ不取敢其ノ中ヨリ毫千万円ヲ融通シテ貰ヒ夫レニテ小洋ヲ買上ケル考ナリ目下ノ奉天ノ狀勢ニテハ奉票暴落ノ為最迷惑ヲ蒙リ居ルハ日本ノ輸入商ニテ小洋ノ買上ケニ依リ奉票ノ價格ヲ維持スルコトハ結局日本ノ利益ニシテ其ノ金ヲ軍費ニ用ヒサル限り日本政府側ニ於テモ別段故障ナカルヘシト存ス、而シテ自分自身ノ考トシテハ索倫線ヲ建設スルト同

以上

一一二四 七月六日 在奉天吉田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛

洮索鐵道ニ関スル町野顧問トノ會談報告ノ件

付屬書 六月二十二日付在奉天吉田總領事ヨリ大藏滿鉄理事宛電報
張作霖ノ索倫鐵道借款希望ニ関スル件

機密公第五三二號

大正十五年七月六日 (七月十二日接受)

在奉天

總領事 吉田 茂 (印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

索倫鐵道ニ関シ町野來談ノ件

去六月二十一日町野來訪シ張作霖ノ依頼ナリトテ索倫鐵道ニ関シ滿鉄当局ニ下相談ヲ試ミ得ル様本官ノ斡旋ヲ頼ム旨申出タルニ付本件ハ滿鉄ト相談スルモ無益ナルヘク問題ハ外務省ノ意向次第ナリトテ一応阻示セルニ同人ハ七月十日頃帰朝ニ付其以前下相談取纏メ度シトテ切望止マス本官ハ町野カ本件ニ関シテ彼是ト運動カマシキコトヲナスヲ快シ

九 東三省鐵道問題 一一二四

時ニ其ノ沿線ニ對シ日本カ莫大ノ土地使用上ノ權利ヲ獲得スルコトモ可能ニシテ頗ル有利ナリト考フ、吉田總領事トノ御話ニ付テハ止ムヲ得サル故正式ニハ其ノ方面ニ相談スルコトトスヘキモ仮ニ日本政府カ承諾スルトシテノ滿鉄ノ社長ヨリノ御話ヲ承リタシ」

大藏「然ラハ社長室ニ同道スヘシ」

二人ニテ社長室ニ行キ社長ニ面談、大藏ヨリ大体ノ要領ヲ社長ニ御話シタル後

町野「右様ノ次第ニテ結局自分トシテハ吉田總領事ノ方ニ万事相談スヘキモ滿鉄トシテ該線ノ敷設ニ對シ如何ナル御考ヲ持タルカ承リタシ」

社長「万事ハ今御話ノ如ク奉天總領事ノ方ニ話サレタク滿鉄トシテハ何等意見ヲ差出シ難キ次第ナルモ仮ニ政府カ承認スルモノトスルナラハ索倫線ノ建設ハ素ヨリ滿鉄ノ希望スル所ニシテ其ノ建設ニ努力スヘシ、但シ毫千万円ノ前渡しノ如キハ現在滿鉄ニ夫レ丈ケノ準備金モナク又有ルトシテモ政府ノ充分ナル了解ヲ得ルニアラサレハ困難ト存ス」

町野「御話ニ依リ御考ノ程充分承知シタリ」

トセサリシモ然レハトテ全然町野ヲ除外スル風ヲ示スモ面白カラスト考ヘラレタルニ付兎ニ角滿鉄ニ申遣スヘシトテ別紙ノ通り大藏理事ヘ打電セル処同氏ハ六月二十五日哈爾賓往復ノ途中当地ニ立寄り本官ニ一応相談ノ上町野ニ面談ヲ遂ケタル処町野ハ本件促進方ヲ懇懇シ尚ホ楊宇霆ニ他用ニテ其日面談ノ折ニモ町野ハ同席ヲ求メ楊宇霆ニ先チテ理事ニ本件ニ関スル話ヲ促シ頻リニ滿鉄ヨリ希望条件提出ヲ迫リタルニ付大藏ハ兎ニ角調査スヘシト約シテ哈爾賓ニ向ヘルカ去六月三十日本官ハ經濟委員會臨席ノ為メ旅順ニ至リタル序ヲ以テ大連ニテ大平滿鉄副社長ヘ本件ニ関シ町野トノ往復ノ次第ヲ語レル処同副社長ハ可成本件ハ町野トノ關係ニ於テ深入リセサル様致度トノ意向ヲ洩シ本官モ亦右最モ可然ト相談ヲ遂ケ当地帰任後大藏理事ハ哈爾賓ヨリ当地ニ再度立寄りタル副社長意見ノ通り町野ヘ一応ノ挨拶トシテ滿鉄側ノ希望条件取調ヘ完了セス下相談モ出来兼ヌル旨鎌田ヲ通シテ七月二日町野ニ申入レタル処此際本件支那側ニ持出サスハ時機ヲ失スヘシトテ町野ハ猶ホモ大連ニ於テ滿鉄幹部ト相談方ヲ迫リ遂ニ大藏ト同車シテ大連ニ至レリ同地ニテノ町野トノ交渉成行ハ未タ承知セサルモ多分

前記ノ方針ニテ滿鉄幹部ハ町野ニ応對セルモノト想像ス一面本官ハ張作霖ノ秘書談國桓ヲ招キ町野來話ノ次第ヲ告ケ貴下ヨリ本件極秘ニトアリシヲ以テ町野ヘ打明ケサランカト思ヒシカ町野ハ張總司令ノ命ニ依ルト言ヒテ先方ヨリ話出セルコトニモアリ又貴彼ノ間之レ迄何等纏ルルコトモナキコトニ付一応貴下ト談合ノ一部ヲ洩ラシタルカ本官トシテハ張總司令ヨリ直接ノ話ニ非レハ今後交渉ニハ応セヌ決心ナリ為念以上ノ次第申置クト云ヒ置キタリ町野カ何故ニ本件ニ付斯ク迄執拗ニ滿鉄ニ迫ラントスルカ其本意ハ承知セス何レ本件ハ大藏理事ヨリ東京ニテ本省ニ報告アルヘキモ一応右報告ス

本信写送付先 滿鉄副社長

大藏理事

(付屬書)

六月二十二日付在奉天吉田總領事發大藏滿鉄理事宛電報
張作霖ノ索倫鐵道借款希望ニ關スル件

大正十五年六月二十二日

吉田總領事

滿鉄

大藏理事 殿

ノコトニ付成ルヘクハ張ト直談コソ望マシク左レハトテ全然町野ヲ除外スルノ風ヲ示スモ宜シカラス旁貴下カ同人ニ面談セラルルトスルモ成ルヘク延ハシテ張作霖歸奉町野出発前後コソ可然又會談ノ砌ニハ過般本件ニ付大連ニ於テ町野ト応答セラレタル筋ニテ先ツ本官ヲ失面ニ立タシムル様仕向ケ滿鉄ハ大ニ之ヲ希望スルモ本件難關ハ一ニ外務方面ナルコトヲ暗示セラルル方可然而シテ不取敢此際鐵道敷設ニ關スル專門家ヲ派出シ貴下ハ成ルヘク都合シテ最近ノ機會ニ当地ニテ面會スヘシト答ヘラレテハ如何ト思考ス將又御考ニ依リテ月末哈爾賓御出張ナレハ其前來ラレテ直ニ哈爾賓ニ行カルルモ一案ナルヘシ何分ノ御返電ヲ乞フ

一一二五 七月七日 在奉天吉田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛

奉天票整理ノタメ張作霖ガ一千万円ヲ入手希望セルニツキ町野顧問大藏理事ト會談ノ件

付記 七月八日付參謀本部作成
對露作戰ノ必要上洮南索倫鐵道敷設促進ヲ要ス

機密公第五三五号

(七月十三日接受)

昨日町野來リ張作霖ノ頼ミナリトテ索倫鐵道借款ニ付早速ニモ貴下或ハ其ノ代理者ヲ当地ニ派遣セラルルカ若ハ本官ノ紹介ヲ以テ町野自ラ貴地ニ出向クカ何レトモ張作霖カ希望シ居ル此際協議進メ度シト申述ヘタルニ付滿鉄ト協議モ一手段ナルカ滿鉄ハ已ニ其ノ敷設ヲ希望シ居ルコトニ付本件ノ成否ハ一ニ外務省ノ意向次第ナリ張作霖ニ對シテハ是迄借款條件提示ヲ求メ居ル次第ナルカ仮ニ先方ノ意向ヲ推測シテ鐵道建設費以外財政整理費ヲモ含マシムルトスレハ財政整理費等ハ別口借款トシ借款抵当以外ニ滿鉄ト新鐵道トノ營業連絡主要鐵道停車場周圍自開商埠地設定(例之停車場ヲ中心トシテ二百支里ノ半徑ヲ画キタル地域ヲ開放シテ外國人ノ居住營業土地商租ヲ許シ應テ商租權設定ノ準備トナス)等ノ條件ヲ付スレハ自ラ外務省ヲ誘フ道生スヘク鐵道建設費ニ付テハ滿鉄ノ調査モアルヘク其ノ提示ヲ求ムヘシト話セルニ町野ハソハ寔ニ妙案ナラン何トカ工夫致スヘク又出來得ヘキ事ナラント云ヒ尙一面貴社當局ト此際ノ會談ヲモ希望セルニ付兎ニ角一応貴社ニ申込ムヘシト答ヘタリ彼ハ來月十日頃歸朝其前本件ヲ或程度迄進捗セシメ度意ト存セラルル處張作霖モ恰モ其ノ頃当地ニ歸來スヘシト

大正十五年七月七日

在奉天

總領事 吉田 茂

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

索倫鐵道ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ既ニ本年七月六日付機密公第五三二号拙信ヲ以テ申進置タル處其後滿鉄本部庶務部長ヨリ別紙報告アリタルニ付御參考迄右写一部此段送付ス

本信写送付先 在支公使

(別紙)

張氏カ一千万円ヲ奉票整理ニ入手希望ニ關シ町野氏來社ノ件

(大正十五年七月三日)

來社前大藏理事ノ腹案

鐵道ノ方ニテ二百五十万円位出ルモ其他ハ中々六ヶ敷君(町野)ノ言フ商租ノ事ハ華府會議ニテ一國カ拔ケカケヲ為シ特ニ權利ヲ得ル様ノ事ハヤラヌ事ニナリ居ル故滿鉄カ此様ノコトヲ Hint シタ事カ外界ニ知レテハ困ル故問題ニスル能ハス

ツマリ索倫鐵道建造費大体一千万円ニテ二百五十万円カ出来ル割合故一千万円ヲ捻出スルニハ其四倍四千万円ノ鐵道ヲ布クコトヲ要スルコトナル、之カアルトシテモ金ヲ得ルニ大藏省ノ許可ヲ要ス云々トテ兎モ角町野ニハ善イ顔ヲシ実ハ張援助ハ斷リ度シ

故ニ町野カ来タラハ右商租等ノコト各種研究シタルモ中々六ヶ敷旨ヲ自分(木部)カ述ヘ其後大藏氏カ何レ外務省ニ行キ相談シ同省ノ意向トシテヒトク叱ラレタトテ斷ルコトトシ度シ云々

(鎌田氏ノ談ハ商埠地ニテ商租問題ニアラサル故談カ異ルモ大藏氏ノ言カ實際ナルヘシト思考シ此打合ニ致シ置キタリ)

町野氏ト会合ノ時大藏氏ハ木部發言ヲ待タス万事右ノ通り自身ニテ話サレタリ然ルニ町野氏ハ商租ニアラス商埠地ナリ談カ違フトヤリタリ(鎌田氏ノ言ト一致ス)

大藏氏ハ其ハ外務省ニテ相談スヘシト答ヘ町野氏ハ頻リニ張ハ鐵道ハ欲シクナシ今ナラハ一千万円カ欲シキ故鐵道ニ食ヒ付クモノナルモ他ノ時ナラハ到底駄目トテ大藏氏ヲ動カサント試ミ居リタリ

尚日本側ハ右商埠地(各人ニ開放ノ)設定ハ索倫線、洮南線位ニシ自分ハ張ニ右兩線ト鄭洮線トヲ入レテ話ス積リナルカ張ハ鄭洮線ハトモ同意セヌニ極マリ居ルカ兎ニ角直チニ帰奉ノ上話シヲシ結果ヲ大藏氏ニ電報スト約シタリ尚此方ニテ八百五十万(九百五十万?)ヲ作ル要アル様話シタリ(一千二百万/中二百五十万円カ別ニ出来ル為メカ)又商埠地ト其近傍ノ開墾權ヲ日本カ得ルコトニテ地契ナト言フテハ出来ヌ話トテ極メテ高飛車ニ出居タリ

理事ハ自分ハ外務省ニ話シ側面運動?ヲヤル丈ケニテ商埠地ノコトハ外務省ニ吉田氏ヨリ申出ルコトニセヨト打合セ町野氏ハ其積リニテ歸リタリ

(付記)

大正十五年七月八日(七月十四日建川大佐持參)

對露作戰ノ必要上洮南索倫鐵道敷設促進ヲ要ス

對露作戰ノ必要上洮南—索倫鐵道

敷設促進ヲ要ス

一、本鐵道ノ戰略的價值

對露作戰ニ於ケル地形上ノ最大障礙物ハ北滿ヲ南北ニ貫

通スル興安嶺ニシテ本山系ヲ横斷スル大軍ノ作戰ハ宿營給養等ノ關係上彼我共ニ鐵道ヲ中心トスル地方ニ殆ント限定セラルヘシ然ルニ本山系ヲ貫通スル鐵道ハ勞農露國ノ勢力下ニアル東支鐵道一条アルノミ開戰ニ際シ多大ノ

努力ノ結果本鐵道ヲ我軍ニ於テ占領利用スルコトヲ得タリトスルモ本鐵道ヲ中心トスル狭少ナル正面ヲ以テ興安

嶺ニ作戰スルハ我進路ヲ限定セラレ興安以西ニ向ツテス

ル戰略展開ニ多クノ時日ヲ要シ且ツ戰略上ノ妙諦ヲ發揮

シ得サルヘシ然ルニ洮南—索倫線存在スルニ於テハ本鐵

道方面ヨリ前進スヘキ軍ト東支鐵道方面ヨリ前進スル軍

トハ彼此相呼応シ相援ケ以テ興安嶺ニ向ツテスル作戰及

之カ通過ヲ容易ナラシメ東支鐵道一条ヲ利用スル露軍ニ

對シ頗ル有利ナル態勢ヲ保持シ得ヘシ若シ其レ本鐵道ニ

加フルニ吉会鐵道完成スルニ於テハ日本軍ハ興安嶺迄二

条ノ鐵道線ニ依リ戰略開進ヲ行ヒ得ヘキ態勢トナリ露軍

主力ノ興安以東進出ヲ斷念セシメ我軍ハ一挙ニ作戰ヲ後

貝加爾ニ進メ得ル望大ニ増加スヘシ換言セハ吉会線及索

倫線兩線ノ成立セシ場合ハ勿論索倫線成立ノ曉ニ於テモ

勞農側ハ戰略上ノ見地ヨリシテ日本トノ武力衝突ヲ極力

回避スルニ至ルヘシ況ンヤ将来同線ヲ更ニ海拉爾付近ニ延長シ得ハ露國ノ北滿ニ對スル領土の野心ハ全々一掃セラレ日露間平和維持ニ關スル有力ナル保障タルヘシ

二、目下鐵道敷設ノ好機ナリ

從來ノ日露間感情ノ衝突ハ北滿問題ヨリ惹起ス今後モ亦

然ラン之レニ北滿ニ於ケル日露兩者ノ勢力間ニ確然ナ

ル優劣ナキニ基因ス若シ日本ノ勢力ニシテ牢固犯スヘカ

ラサルモノアランカ実力ナキ勞農露國ハ自ラ北滿ニ對ス

ル野心ヲ思ヒ止リ日露ノ葛藤ハ自然終息スルニ至ルヘシ

而シテ我國ノ勢力ヲ北滿ニ扶殖スヘキ具體的ニシテ最モ

有効ナル手段ハ鐵道政策遂行ヲ措テ他ニ求メ難ク一面勞

農露國現下ノ態度ヲ考察スルニ一般ニ我國ニ對シ恐怖ノ

念ヲ抱キ特ニ對北滿政策ニ於テハ最近張作霖ノ威望隆々

タルニ鑑ミ退嬰ノ情歷然タリ反之張作霖ノ對露反感ハ殆

ント拭フヘカラサルモノアリ其態度亦強硬ニシテ對露關

係ニ於テ我國ト協同協力セントスル意志濃厚ナリ之レ正

ニ我北滿鐵道政策遂行ノ好機ト云ハサルヘカラス而モ鐵

道敷設ニ關シ勞農側ハ何等實質的妨害ヲ試ムヘキ実力ナ

キハ既ニ洮齊線ノ實例ニ於テ之ヲ証ス

偶々曩ニ張作霖ハ洮南―索倫鐵道敷設ニ関シ滿鉄ニ謀ル
処アリ滿鉄亦本鐵道ノ經濟的価値相当大ナルモノアルニ
鑑ミ敷設ノ意志充分アリ又本鐵道付近地方官民ニ至リテ
ハ地方ノ開發及之ニ基ク自己ノ利益ヨリ打算シ之亦其促
進ヲ切望シアル情態ナリ

本鐵道ノ戰略的価値ノ重大ニシテ敷設ノ氣運熟シアルコ
ト前述ノ如シ我カ軍部ハ須ク当事者ヲ刺激援助シテ其促
進ヲ計リ北滿鐵道政策遂行ニ一步ヲ進ムヘキナリ

一一二六 八月二十八日 在奉天吉田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

洮索鐵道ニ関スル町野トノ会谈内容報告ノ件

第二五六号（極秘）

昨二十七日町野来談索倫鐵道ニ就キ大蔵ト交渉顛末ヨリ彼

此ト不平ヲ訴ヘタルニ付元来本件ハ張作霖ヨリ曾テ談アリ
タルノミニテ中絶シ其後足下ニ於テ大蔵ト直接談合シタシ
トノコトニ付之ヲ拒ムヘキ筋合モナケレハ大蔵ヲシテ足下
ニ当地ニテ会谈スル様取計ヒタル以來別ニ消息ナキヲ以テ
爾来本官ハ考ヘモセサル次第ナリ本省ノ意向ハ兎ニ角支那
側ニ妙案アラハ之ヲ考慮スルニ吝ナラス然レトモ支那側昨
今ノ無条理極マル態度ニテハ鐵道等ノ談ニアラス其中楊宇
霆ニ篤ト諸問題ニ就キ懇談シタク思ヒ居ル次第ヲ告ケタル
ニ早速取次クヘシトテ去レルカ次テ楊ヨリ一兩日中ニ來訪
シタク旨申シ來リタリ三十日ニ会谈ヲ約シタルニ付其際貴
電第一二二一号御来訓執行ノ素地ヲ作り次テ張作霖ニ面談ノ
心組ナリ

事項一〇 雜件

(1) 中国ヘノ武器供給問題

一一二七 一月六日 幣原外務大臣ヨリ
在浦潮渡辺總領事宛（電報）

ソ連邦ヨリ馮玉祥ヘノ武器供給ニ関シ真相取
調方訓令ノ件

第三号

馮玉祥ノ參謀ハ在支公使館付陸軍武官ニ対シ極秘トシテ目
下浦潮ニ於テ馮玉祥ニ供給スヘキ武器彈藥ヲ七隻ノ汽船ニ
積込中ニテ該汽船ハ近ク大沽又ハ秦皇島ニ來ル筈ナリト内
話セル趣ナルカ右真相取調ヘ回電アリ度

一一二八 一月九日 在雲南糟谷領事ヨリ
幣原外務大臣宛

唐繼堯ノ仏国ヨリ武器購入計画ニ関スル件

付記

大正十四年十二月十三日付在雲南糟谷領事ヨリ

幣原外務大臣宛機密公第八六号

時局ニ対スル唐繼堯ノ意見並ビニ列国ニ対シ援
助方運動ノ件

一〇 雜件 一二二七 一二二八

機密公第一二号

大正十五年一月九日

在雲南

領事 糟谷 廉二（印）

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

雲南政府仏国ヨリ武器購入計画ノ件

唐繼堯ハ支那ノ赤化防止ヲ理由トシテ本官及仏国領事ニ武
器及金錢上ノ援助ヲ求メタル次第ハ客年十二月十三日付機
密公第八六号拙信末段ヲ以テ報告ノ処今般山県大佐ガ唐繼
堯ヨリ聞知シタリトテ本官ニ内談スル処ニヨレハ唐ハ昨年
八月中范石生軍ト省内広南開化地方ニ於ケル戰鬪及滇越鉄
道沿線ノ土匪討伐ノ為メ曩ニ同鐵道警備用トシテ北京外交
団ノ承認ヲ得テ仏国ヨリ購入シタル歩兵銃三千挺機關銃四
挺（在支公使発本省宛大正十二年十二月三日付機密第八八
九号信御参照）中亡失毀損シタルモノ多数ニ上リ之カ補充
ノ必要アリトノ理由ヲ以テ当地仏国領事ニ運動ノ結果仏国
側ヲ動カシ在支仏国公使ヨリ北京外交団ニ対シ又々該鐵道